



## 事業目的・概要等

### 背景・目的

- 二酸化炭素排出量を大幅に削減し、低炭素社会を実現するためには、石炭火力発電所等への二酸化炭素回収・貯留（CCS）の導入が求められる。
- CCSの円滑な導入のためには、環境の保全に配慮しつつ、我が国の特性を踏まえて、調査・検討を進める必要がある。

### 事業概要

#### （1）二酸化炭素貯留適地調査事業（4,000百万円）【経産省連携】

沖合域を含む我が国周辺水域で、広域調査に加えて、範囲を絞った詳細調査を調査地点を増やして実施し、貯留性能、遮蔽性能、地質構造の安定性、海洋環境保全等の観点から、二酸化炭素の海底下貯留に適した地点の抽出を進める。

また、（2）の事業における貯留地点候補の抽出を行う。

#### （2）環境配慮型CCS実証事業（5,130百万円）

H27年度までの成果を活用して、環境配慮型の二酸化炭素分離回収設備を建設し、二酸化炭素吸収液からの有害化学物質の放出抑制技術の実証、石炭火力発電での二酸化炭素分離回収が発電効率に与える影響等の評価を行う。また、我が国での二酸化炭素輸送手段として有力と考えられるシャトルシップ等を活用した輸送・貯留技術を実証するため、船舶・圧入井周りの設備設計・作製を行う。

### 期待される効果

- ・ 環境に配慮したCCSの適切かつ円滑な導入
- ・ 二酸化炭素排出量の大幅な削減

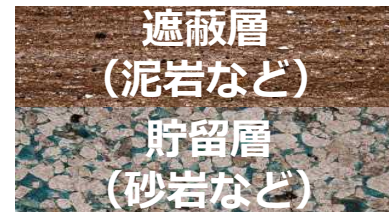
### 事業スキーム

- （1）委託対象：民間団体等  
実施期間：8年間（H26～33）
- （2）委託対象：民間団体等  
実施期間：13年間（H26～38）

#### <年次計画>

- |                        |
|------------------------|
| H26～28：広域調査            |
| H27～29：詳細調査            |
| H29～33：ボーリング調査<br>総合評価 |
| H26～27：技術検討            |
| H28～32：技術実証            |
| H33～35：掘削・圧入準備         |
| H36～38：運転、モニタリング       |

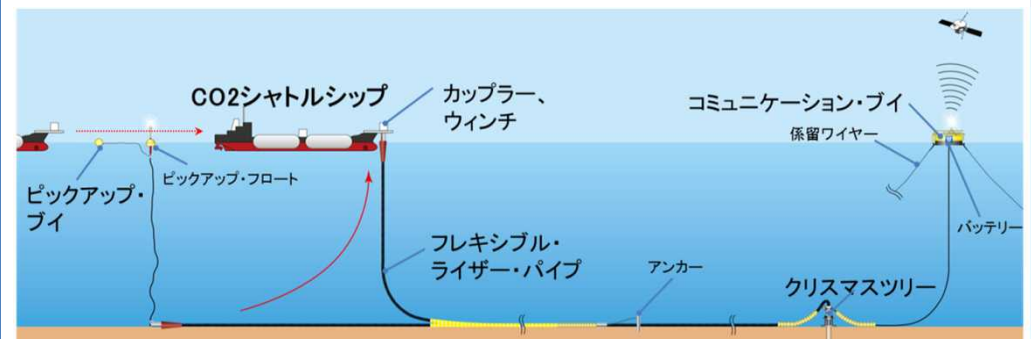
### イメージ



二酸化炭素の貯留に適した地層の調査



有害化学物質の放出を抑制可能な二酸化炭素分離回収設備



シャトルシップ輸送、海底貯留システム